

11

塩素系カビ取り剤で気分が悪くなった！

温度、湿度、栄養、空気……。浴室にはカビにとって最適の条件が揃っています。入浴後、石けんカスをよく流し、浴槽にフタをして、換気扇を回しておくなど、ふだんからカビ予防に気を使っているつもりでも、どこからともなく生えてくるカビ……。そのままにしておくとアレルギー性疾患や感染症の原因にもなります。殺菌除去のためにはカビ取り剤が有効ですが、そのカビ取り剤を使用中に、少しでも早く乾くようにと50℃くらいのお湯で洗い流していたところ、気分が悪くなったという相談が当センターに寄せられました。

家庭用のカビ取り剤には塩素系と非塩素系があります。カビの色素を漂白する効果がより高いのが塩素系カビ取り剤で、水道水やプールの消毒殺菌等に幅広く使われている次亜塩素酸ナトリウムに、アルカリ安定化剤として水酸化ナトリウムが1%弱加えられたものです。

次亜塩素酸ナトリウムはアルカリ性の状態では安定ですが、酸性洗剤と同時に使用したり容器を移し変えたりして、液性が少しでも酸性に傾くと、有毒な塩素ガスを発生します。そのため、混用の危険性について使用者に明確に分かるよう、製品に『混ぜるな危険』と表示することが家庭用品品質表示法で義務づけられています。同時に使用したつもりがなくても洗剤が不十分な場合、一方の物質が残留していて反応を起こす可能性もあるほか、酢やアルコールと混ぜたり、獣毛のハケやブラシを使用したりしても有毒なガスが出る場合があります。また塩素ガスではなく塩素系の臭いだけでも気分が悪くなることもあり、今回の事例のように熱を加えたり、一度に大量に使用したり、続けて長時間使用したり、せまい場所で使用したりする際には、換気等に十分な注意が必要です。もし使用中に目にしみたり、せき込んだり、気分が悪くなったりした時は、直ちに使用をやめてその場を離れ、洗眼、うがい等をしてください。

一方、水酸化ナトリウムは強アルカリ性の物質で、タンパク質を溶かす作用がありますので、カビ取り剤の原液を絶対に素

手で扱わないようにしてください。もし手についた場合は、直ちに大量の水で洗い流し、異常が残る場合は皮膚科の診察を受けてください。目に入った場合そのままにしておく^と失明の恐れもあります。すぐに十分な流水で15分以上洗眼した後、眼科を受診してください。なお受診する際には、より適切な処置^{じんそく}を迅速に受けられるよう、製品を持参するとよいでしょう。

カビ取り剤は効果が高い反面、影響力も大きいものです。使用中に誤って目に入ったり、皮膚についたり、ミストを吸い込んだりしないように、保護用のメガネ・炊事用手袋・マスク^{すいじ}をする等の準備をしてから始めましょう。マスクをする場合は、水で濡らした後にかたくしぼって使うとより効果があります。天井など目線より高いところには、直接スプレーせず^えに柄のついたスポンジなどにつけて使用しましょう。また小さな子どもがいる家庭では、絶対に子どもの手が届く場所には放置しないよう注意が必要です。子供などが誤ってカビ取り剤を飲んでしまった場合は、無理に吐かせず、応急処置としてすぐに水または牛乳を飲ませた後、医師の診察を受けてください。

清潔な浴室は気持ちがいいものですが、カビ取り剤を使ってお風呂場はキレイになったけれど気分が悪くなったというようなことのないよう、使用上の注意をよく読み正しくお使いください。
(平成13年9月)

